Monthly
さいがただより
National Hospital Organization Saigata Medical Center
2019年3月　Vol.23

ヤマリンドウ（火打山）

発行：独立行政法人国立病院機構　さいがた医療センター　院長 下村 登規夫　https://saigata.hosp.go.jp/
〒949-3193　新潟県上越市大潟区犀潟 468-1　TEL:025-534-3131　FAX:025-534-4824

〈基本理念〉「良い医療を安全に、心をこめて」

池江璃花子さんが白血病をカミングアウト

さいがた医療センター　院長特任補佐　村上　優

池江璃花子さんが白血病とカミングアウトして、誰しも耳を疑う驚きだった。しかしいち早く闘病に向かうこと、周囲への配慮を表現した時の称賛は多くの日本人、いや彼女の活動を知る世界の人々から寄せられている。生死をかける困難に向かうのは18歳のこころに何をもたらすのか。そのまえに10歳の子供が虐待被害を訴えていたにもかかわらず見殺しにされて凍り付いた私たちに、足元を見てしっかり前を向いて歩こうと促しています。

カミングアウト、自らの困難を人々の前で表現することは大変勇気のいることです。生きとし生けるものすべて終わりがあります。その過程で障害や病があり、運命が待ち受けていますが、自らの負の部分を表現することで、世の中を変えていくことができるのです。精神医療の分野ではレーガン米大統領のアルツハイマー型認知症、フォード大統領の妻のベティ・フォードさんのアルコールと安定剤依存もあり、映画にもなったロックバンド・クイーンのフレディ・マーキュリーのエイズなどがあげられます。世界にはこれらの勇気あるカミングアウトから、その領域の障害や病気の理解が進んだ歴史があります。

ナシア・ガミー著「一流の狂気　心の病がリーダーを強くする」（日本評論）はカミングアウトではないが、精神障害の中でも双極性障害（躁うつ病）に光を当てて誰でも知る世界のリーダーのこころを取り上げています。ケネディやチャーチル、ガンジーの病跡学で病の力を実証的に記しています。

私が医師になった半世紀前に比べて、わが国でも病や障害を持つ人々が自らを表現して主張する機会は大幅に増えています。ただこころの病や障害を持つ人々がカミングアウトする機会は多いとは言えないように感じます。偏見と一言でいうのは簡単ですが、それに打ち勝つ生き方を示し、生き方の多様性を表現し、その表現を受け入れ共感が生まれる土壌がなければカミングアウトはできません。健常者と障害者という二分した概念ではなく、すべての人々は死に向かって歩いているのですから、それを受け入れ自覚してこそ、生きる主張が生まれ、生き延びようとする人々への称賛がうまれることを18歳の池江さんの生き方から学びました。そのような精神科医療の土壌づくりにさいがた医療センターも役立てる働きをしたいと強く思います。

Content

１P…○池江璃花子さんが白血病をカミングアウト
２P…○アディクション（依存症）診療部門
○クロザピンの治療状況
○放射線画像診断の受入（共同利用）
○デイケア
○重症心身障がい医療（ショートステイ）
○神経難病医療
○認知症医療
○訪問看護

「独立行政法人 国立病院機構 さいがた医療センター」

アディクション（依存症）診療部門

精神科診療部長　佐久間　寛之

当院では平成30年9月より依存症治療プログラムを開始しました。お酒の問題だけでなく、違法薬物や処方薬依存、ギャンブル依存など、依存症全般を対象に診療を行っています。ご本人、ご家族からのご相談はもとより、行政機関からのケース相談にも対応しております。

また発達障害・高次機能障害の診療も行っております。当院では精神科医・臨床心理士による検査とアセスメント、多職種チームによる介入を行っております。また高次機能障害については、脳神経内科と精神科が連携体制を取っています。お困りの方、どうぞお気軽に受診相談のお電話をください。

クロザピンの治療状況

薬剤科

平成30年8月から治療抵抗性統合失調症の患者さんに対してクロザピン治療を開始しました。クロザピン治療前は抗精神病薬を複数服用していた患者さんもクロザピンのみの単剤となり、服用する際の負担が少なくなりました。また治療経過も良好です。

平成31年2月新規2例、累計21例（2月28日現在）

神経難病医療

脳神経内科

当院の脳神経内科は80床あり、主にパーキンソン病・脊髄小脳変性症・多系統委縮症・筋萎縮性側索硬化症の薬物調整・リハビリテーション目的の入院を受け入れています。

また、地域包括ケアシステムの実現に向けて退院支援に力を入れており、多職種間で協働するためにカンファレンスの充実を図り、患者さんにより良い援助・支援の提供を心がけています。地域における神経難病中核病院としての機能充実に努めています。

空床情報（長期利用）：3月1日現在　8床

放射線画像診断の受入（共同利用）

診療放射線科

当院は、CT（80列）、MRI（1.5T）、そして上越地域では数が少ないSPECT装置を有しております。また、放射線画像診断医が常勤でおりますので、検査結果がすぐにわかります。

この画像診断体制で、国立病院機構の役割の1つ“地域での医療の提供”の一環として、地域の医療施設からの検査依頼もお受けしています。お急ぎの場合には当日検査にも対応しています。ぜひご利用ください。

平成31年2月実績：MRI-7件、CT-1件、SPECT-０件

認知症医療

心理療法室

精神科と脳神経内科及び内科の各担当医師が連携して、幅広い視点から原因となる病気の特定に努めております。

また、当院にはCTスキャン、MRIが設置されており、診療放射線技師や読影をする放射線画像診断医が常駐しておりますし、脳波計を用いたより精密な検査や臨床心理士による神経心理学検査も実施可能です。お気軽にご相談ください。

デイケア

リハビリテーション科

当院では、社会生活機能の回復を目的として難病や精神障がいを持つ人のデイケアを実施しています。
難病デイケアは、毎週月・水・木に実施しており、身体機能の維持・向上だけではなく、仲間づくりも支援しています。

精神デイケアは、毎週月曜日から金曜日まで、精神障がいの回復途上にある人が社会の中で自立した生活ができることを目指して実施しています。見学や相談、参加希望の方はお気軽にご相談ください。

訪問看護

看護部

地域で安心して生活していただくために入院時から関わらせていただき、医師、ケースワーカー、作業療法士と連携しながら、病状や服薬に関する支援、家族への支援など、利用者の方に必要な支援を行っております。訪問は看護師の他、必要に応じてケースワーカーも同行し、書類作成や社会資源の利用などのご相談についても支援させていただきます。

重症心身障がい医療（ショートステイ）

療育指導室

当院の重症心身障がい病棟では、「医療型短期入所」（通称：ショートステイ）の受け入れを行っています。
当院のショートステイは、在宅で生活されている重症心身障がい児者を対象に、申込み頂いた一定期間を病棟でお過ごし頂き、食事の他、ご利用の曜日等によっては入浴や日中活動も提供しています。また、日帰り利用や他の通所事業所の利用後に宿泊を伴う利用等も可能となっています。
利用される方や地域のニーズ等も取り入れ、利用しやすいサービスが提供できるよう取り組んでまいりますので、お気軽にお問い合わせください。

ショートステイ：2月の延べ利用日数　12日　　空床情報（長期利用）：3月1日現在　4床

外来担当医表
←こちらの QR コードより
ご覧いただけます